

平成14年 3月14日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田良一

広島大学経済学部公開講演会の開催について

経済学部では、数多くの著書やテレビでおなじみの大前研一先生をお招きして、一般市民、学生対象の公開講演会を下記の要領で開催します。入場無量です。
なお、駐車場がありませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい。

記

日時 3月22日(金)午後5時～6時30分
場所 広島大学 東千田キャンパス
大講義室(座席数は330席)
講師 大前研一氏
演題 「構造改革と日本経済の行方」

(講師紹介) [別紙のとおり](#)

【お問い合わせ先】
広島大学法学部・経済学部庶務係
TEL: (0824)24-7205
(ダイヤルイン)

[発信枚数;A4版 2枚(本票含む)]

(講師紹介)

大前研一(おおまえ・けんいち)

1943年、福岡県に生まれる。早稲田大学理工学部卒業後、東京工業大学大学院原子核工学科で修士号を、マサチューセッツ工科大学大学院原子力工学科で博士号を取得。(株)日立製作所原子力開発部技師を経て、1972年、マッキンゼー・アンド・カンパニー・インク入社。以来ディレクター、日本支社長、アジア太平洋地区会長を努める。

世界の大企業やアジア・太平洋における国家レベルのアドバイザーとして活躍のかたわら、グローバルな視点と大胆な発想で、活発な提言を行っている。「ボーダレス経済学と地域国家論」提唱者。ウォールストリート・ジャーナル紙のコンピューティング・エディターとして、また、ハーバード・ビジネスレビュー誌では経済のボーダレス化に伴う企業の国際化の問題、都市の発展を中心として広がっていく新しい地域国家の概念などについて、継続的に論文を発表している。この功績により1987年にはイタリア大統領よりピオマンズ賞を、1995年にはアメリカのノートルダム大学で名誉法学博士号を授与された。英国エコノミスト誌は現代世界の思想的リーダーとしてアメリカにはピーター・ドラッカーやトム・ピーターズが、アジアには大前研一がいるが、ヨーロッパ大陸にはそれに匹敵するグールー(思想的指導者)がいない、と書いた。同紙の1993年グールー特集では世界のグールー17人の一人に、また1994年の特集では5人の一人として選ばれている。

1992年には政策市民集団「平成維新の会」を設立、その代表に就任する。1994年7月、20年以上勤めたマッキンゼー・アンド・カンパニー・インクを退職。同年、国民の間に議論の場を作るとともに、人材発掘・育成の場として「一新塾」を設立、96年には企業家養成のための学校「アタッカーズ・ビジネス・スクール」を開校、塾長に就任、現在に至る。現在、大前・アンド・アソシエーツ、スカイパーフェクトTVの経営専門チャンネル「ビジネスブレイクスルー(BBT757)」、家庭用インターネットのインフラサービスを提供する「エブリデイ・ドット・コム社(EveryD.com,Inc.)」、インドとのソフトウェア開発専門の合弁会社「ジャスティック・パーク株式会社」の創業者兼代表取締役を努めるかたわら、Graviton、ACI、スクウェア、イーシステム株式会社の取締役も勤め、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)大学院政策学部教授、オーストラリアのボンド大学の評議員兼取締役及び客員教授、一橋大学大学院国際企業戦略研究科客員教授、ペンシルベニア大学ウォートンスクールSEIセンターのボードメンバーでもある。また、経営コンサルタントとしても各国で活躍しながら、日本の疲弊した政治システムの改革と真の生活者主権の国家実現のため、新しい提案・コンセプトを提供し続けている。経営や経済に関する多くの著者が世界各地で読まれている。

趣味はスキューバダイビング、スキー、オフロードバイク、クラリネットと多彩。ジャネット夫人との間に二男。